

血漿分画製剤に関する調査報告（2017）

一般社団法人 日本血液製剤協会では、薬剤師を対象に血漿分画製剤の特性の認知や理解度の把握、インフォームド・コンセントの実態や当協会が作成した資材の認知度、使用状況、評価等の調査を実施し、その結果を集計・解析した報告書を作成した。

【目的】

当協会は、血漿分画製剤の有効性や安全対策等に関する認知を上げていく啓発活動を行っており、2015年には若手医師を対象とした患者へのインフォームド・コンセントの実態調査を実施した。今回は薬剤師を対象として以下の内容をWEB調査にて実施した。

- ① 血漿分画製剤の応需状況の把握
- ② 血漿分画製剤の特性の認知や理解度の把握、インフォームド・コンセントの実態
- ③ 当協会が作成している資材の認知度、使用状況、評価・要改善点の把握

【調査方法】

1. 調査機関：2017年2月7日(火)～2月27日(月)
2. 調査地域：全国
3. 調査手法：インターネット調査
4. 調査対象：100床以上の病院に所属し、血漿分画製剤の応需経験のある薬剤師
5. 有効回答数：176
6. 調査機関：株式会社マクロミル

【調査結果の概要】

1. 患者に対する血漿分画製剤に関する情報提供の実態に関しては、情報提供をしたことのあると答えた薬剤師は全体の36%であった。説明所要時間は、全体の84%が10分未満であり、最も多かったのが5～10分未満で59%であった。情報提供時に使用する媒体（ツール）は、全体の86%が「紙の資料」を使用しており、「口頭のみ」が22%であった。説明の際の参考媒体としては、「各製薬会社が作成している冊子・WEBサイト」が閲覧率・頻度とも高く、次いで「医療従事者向けのポータルサイト」「当協会が作成している冊子・WEBサイト」が多かった。
2. 血漿分画製剤に関する情報提供の際の説明内容については情報提供経験のある薬剤師のうち、「投与後の一般的な副作用」「薬剤の投与時間」「特定生物由来製品」が上位で挙げられている。説明内容についての満足度を見ると、説明率の高い項目を含め、全体的に満足度は高いとは云えない。
3. 当協会が作成している資材の認知率は全体で18%であった。資材認知者のうち、患者へ情報提供する際に利用している薬剤師は23%であった。

4. 当協会が作成している資材の要改善ポイントとしては、「イラストの見やすさ」「文字の大きさ」「文章の内容（わかりやすさ）」が挙げられた。